

## 第 67 回日本 PTA 全国研究大会 兵庫大会 参加報告

富士市 PTA 連絡協議会

会計 服部 英之

8 月 23 日(金)、24(土)にて第 67 回日本 PTA 全国研究大会 兵庫大会に出席してまいりました。

私にとって兵庫という地には、悲しい思い出があり、1995 年当時部活に明け暮れていた青春時代に阪神・淡路大震災が起き、夏合宿で一緒になる、とある高校の運動部寮が崩壊し、多くの仲間達を亡くした地であります。

初めて出席させて頂く PTA 全国研究大会が、この地だと言うことに何か強い意味が有るのかと想い参加させて頂きました。

大会のスローガン『つなげよう「いのち」のバトン 次世代を生き抜く子どもたちへ ～地域とともに育む力 兵庫から～』ということで、ここ十年インターネットやスマホの普及により生活が劇的に便利で豊かになる一方、地域社会との関わりや人とのコミュニケーションが少なくなり、子供達の成長に大きく影響しているのではないかと考えられています。

イジメ・虐待が社会問題となり、わたしたち PTA は、社会教育の担い手としての在り方が問われています。そんな中「兵庫県の取り組み」として、家庭内での教育力の向上と地域が支える学校作りの充実を目指した、PTA を核とした地域住民の参画と協働による『PTAC 活動』を展開しているとの事で、学校・地域・家庭の三位一体で命の大切さを我々保護者が再確認し、グローバル時代を生きる次世代の子供達の健全育成を目指し、繋いでいくことが PTA の役割として一層求められていると思いました。

分科会では『「いじめ」なんてかっこわるい!』を研究課題にしている分科会に参加させて頂きました。

いま子供を取り巻く環境は、SNS やネットの普及により大きく変化しました。

コミュニケーションツールとして使われる一方で、公私との境界が曖昧になり心と身体を休める時間を確保することが容易ではなかったのも事実です。

しかし「いじめ」という問題を考えると、ストレスの回避と心の平和は重要でありリスクマネジメントの観点からも、子供の些細な変化を捉え「いじめ」を未然に防ぐ事が大切だと思いました。

その為には、私たち保護者が子供達の心を守る為に出来ることはなにか？

多様化するいじめの芽を摘み取るには？いじめに繋げない為に学校・地域・家庭で出来ること！を、パネルディスカッションやグループディスカッションを取り入れることで、皆で考えまた人それぞれの考えを得る良い機会になりました。

ここで学んだことをいかし、三位一体で守ることが大事だということを改めて思いました。